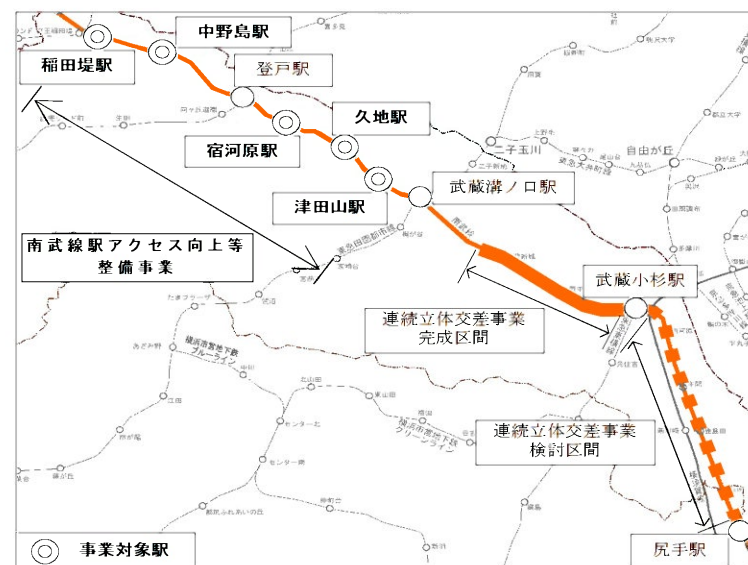


(1) 事案の背景・課題等

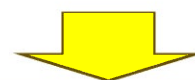
《背景》

- ・ JR南武線武蔵溝ノ口駅以北の片側改札口の5駅（稲田堤駅、中野島駅、宿河原駅、久地駅、津田山駅）については、鉄道による地域分断の改善や踏切を横断する駅利用者の安全性・利便性の向上など駅へのアクセス向上に向けた取組が必要となっている。
- ・ 連続立体交差化事業は、高架道路等の存在により困難が予想され、事業期間も長期化することが予想されることから、平成21年度に「南武線駅アクセス向上方策案」を策定し、現在、稲田堤駅及び津田山駅において、橋上駅舎化の取組を進めている。
- ・ 稲田堤駅及び津田山駅については、平成24年度にJR東日本と基本覚書を締結し、橋上駅舎化の設計を完了した。
- ・ 津田山駅については、平成27年度に事業用地を取得した。



《課題》

- ・ 市内の南武線（支線を除く）駅で唯一バリアフリー化が行われていない。
- ・ 駅に近接する平瀬第二踏切、津田山第一踏切の両踏切は、ピーク時の遮断時間が40分/時以上の「開かずの踏切」である。
- ・ 上記の両踏切は、近接する下作延小学校の通学路として、全校生徒の約6割となる約230人の児童が横断しており、踏切近傍で通学中の児童と自転車等との接触事故がここ3年間で5件発生（下作延小学校へのヒアリング）している。（整備後は自由通路を通学路とする予定）
- ・ 南武線内において事故等が発生し、踏切が長時間遮断することとなった場合は、生徒が学校へ登校できず、踏切前で長時間待機することとなり、学校生活への影響が発生している。
- ・ 駅の既存ホームが、安全に支障を来たすと思われるほど大きく傾いている。（工事にあわせ、JRにおいて既存ホームの改修工事を予定）



《課題解決に向けた取組の方向性》

- ・ 地域分断の解消による駅利用者や児童等の安全性の確保、駅舎のバリアフリー化、駅へのアクセス性の向上が喫緊の課題となっており、超高齢社会の更なる進行を見据えて、事業効果の早期発現を目指す。

(2) 取組経緯

- 平成20年 6月：「南武線駅アクセス向上方策検討会」を設置
- 平成20年11月：「川崎市南部地域交通基盤あり方検討委員会（学識経験者で構成）」
武蔵溝ノ口駅以北についても片側改札駅の解消などの取組が必要と進言あり
- 平成21年 6月：「自由通路の整備及び管理に関する要綱」を国が策定
自由通路の位置づけ、整備と維持管理に関する費用負担のルールを規定
- 平成22年 2月：「南武線駅アクセス向上等方策案」の策定
- 平成22年12月：バリアフリー新法に基づく国の基本方針で定められた駅構内バリアフリー化期限
- 平成24年11月：「南武線駅アクセス向上等整備事業の取組状況について」の報告
（まちづくり委員会）
- 平成24年12月：「南武線津田山駅自由通路新設及び橋上駅舎等に関する基本覚書」の締結
南武線津田山駅自由通路の新設及び橋上駅舎化に関する基本設計及び実施設計
- 平成26年 3月：事業説明会
- 平成26年 5月：「JR津田山駅色彩デザイン投票結果について」（報道発表）
投票期間 4月30日から5月15日まで
- 平成27年12月：事業用地取得

(3) JR東日本との合意事項について

《工事の施行主体》

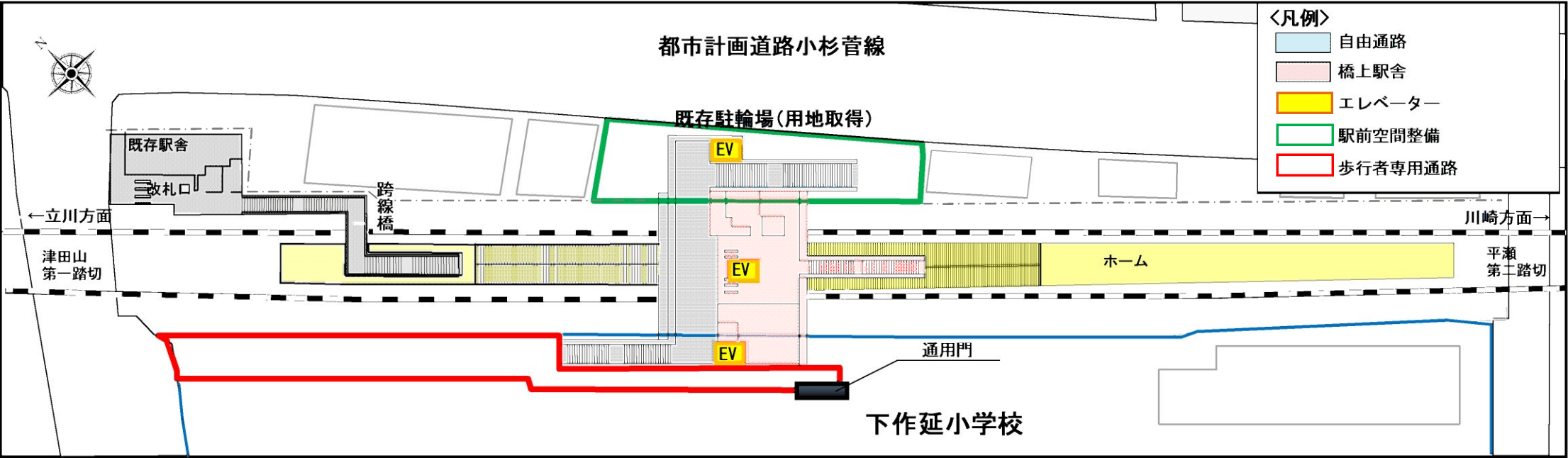
JR東日本

《工事の費用及び負担》

事業費	川崎市	JR東日本
	1,994,417千円	209,994千円※
	2,204,411千円	

※バリアフリー施設整備費用相当額及び既存駅舎と乗換え跨線橋の撤去費用など

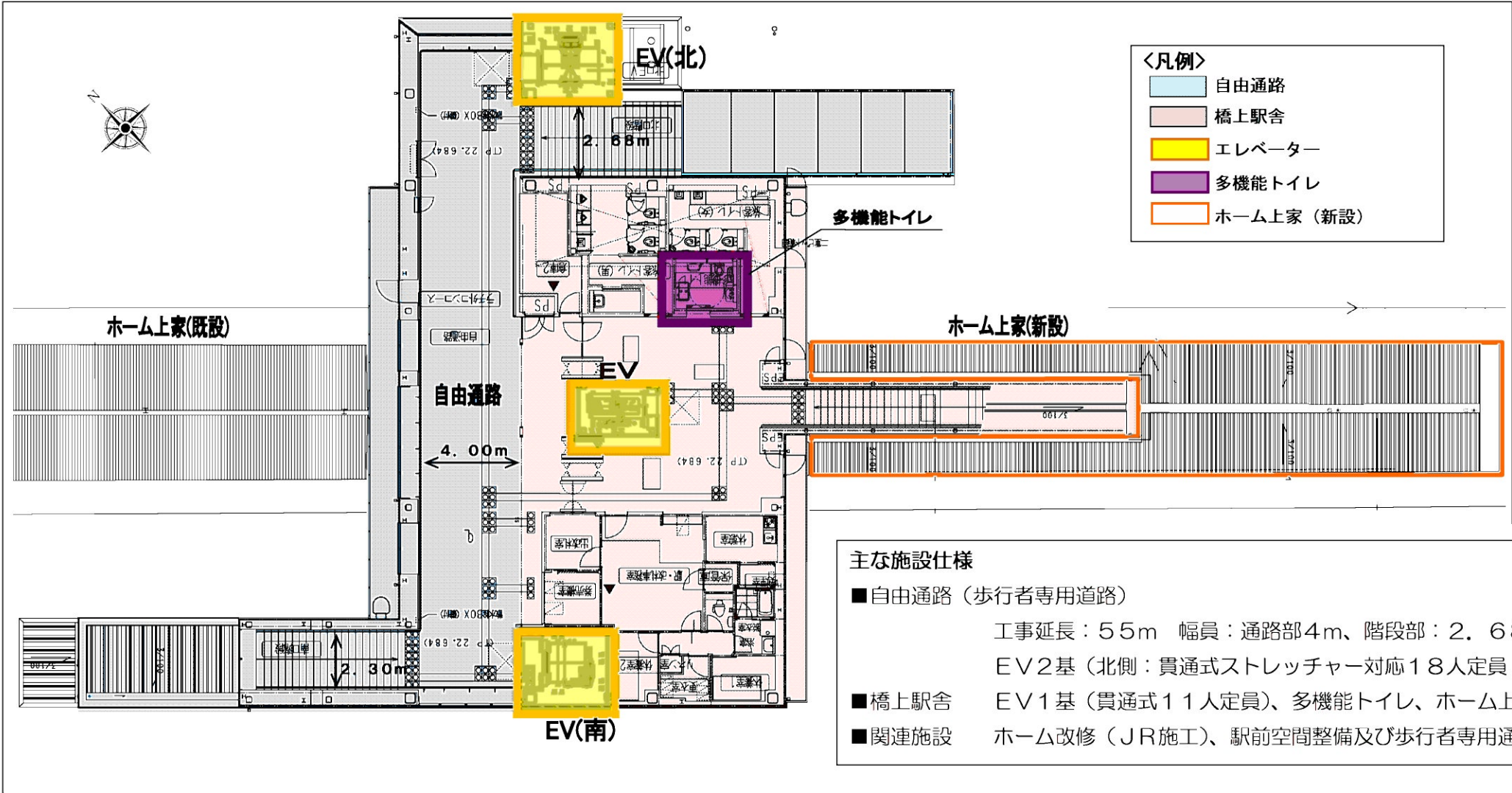
(4) 施設の配置計画



(6) イメージパース



(5) 施設の概要



(7) 整備スケジュール

平成28年度	校庭遊具移設工事（市施工） 駐輪場移設工事（市施工） 自由通路及び橋上駅舎工事着手（JR 施工）
平成30年度	自由通路及び橋上駅舎の一部使用開始 駅前空間整備（市施工）
平成31年度	歩行者専用通路整備（市施工） 既存駅舎及び乗換え跨線橋撤去（JR 施工）